



乳腺外科のご紹介

～ 一人ひとりに合う治療を目指しています ～

乳腺外科部長 河野 誠之

乳がん患者さんは年々増加する傾向にあり、乳がん治療では専門性の高い診療が求められています。乳腺外科では、主に乳がん患者さんの診療を行っています。現在3人の医師が病院中の多職種のスタッフと協力して「チーム医療」で乳がん診療を行っています。

乳がんを診断するためにはマンモグラフィや超音波検査を行います。当院では診断が難しい微小な石灰化病変に対してステレオガイド下のマンモトーム生検を行うことができます。また、診断が難しい病変でも乳房MRIも含めて詳細な検討を行って、しっかりと乳がんの診断をしています。乳がんが見つかって手術をしてもできるだけきれいな乳房が残るように心がけていますが、がんの範囲が広い場合などで乳房が残せない場合には乳房再建も行うことができます。

乳がん患者さんは、とても大変な手術や抗がん剤などの治療を受けながらも、がんについての心配や不安と戦っておられます。このため当院で治療を受けられる乳がん患者さんには、それぞれの患者さんにあった適切な治療を選択していただき、スタッフが寄り添うことで安心して治療を受けていただきたいと思っています。これからも乳がん患者さんと病院スタッフが一緒に治療を頑張っていけるような「チーム医療」の体制づくりに努めてまいります。

今後も播磨地区でよりよい乳がん診療が行えるように地域の方々と共に頑張っていきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



田口医師、河野医師、金子医師



病院内の多職種による乳癌カンファレンス

【乳腺外科の診療内容】

乳癌手術症例	年間約100例
主な手術術式	腫瘍切除術・乳管腺葉区域切除術・乳房部分切除術・乳房全切除術・乳頭温存乳房切除術・センチネルリンパ節生検(色素・アイソトープ併用法)腋窩リンパ節郭清術・一次一期乳房再建術(形成外科合同)等
放射線療法	術後補助放射線療法・緩和的放射線照射
全身療法	ホルモン療法・化学療法(タキサン・アンスラサイクリン・エリプリン等)分子標的治療(CDK4/6阻害剤・抗HER2抗体薬・抗PD1/PD-L1抗体薬・PARP阻害剤等)
画像検査	マンモグラフィ・乳房トモシンセシス・乳房超音波(エコー)乳房MRI・リンフォシンチグラフィ等
病理学的検査	細胞診・針生検・マンモトーム生検(ステレオガイド下・エコーガイド下)
その他	遺伝学的検査(BRACAnalysis)遺伝カウンセリング(患者さんのみ)

